



切り絵『千両ねずみ』

比企善彦作



茨木神社社報
発行所
茨木神社社務所
茨木市元町4-3
072(622)2346
[http://www.
ibarakijinja.or.jp/](http://www.ibarakijinja.or.jp/)

「受け継ぎ」

去る十一月十四日から十五日にかけて、天皇陛下におかれましては大嘗祭を御斎行遊ばされました。皇室の弥栄と令和の御代の平安を御祈念申し上げます。大嘗祭において、天皇陛下は歴代天皇の御霊を受け継がれ、過去から引き継がれてきた大御心をこれ以後体現されていかれます。

さて、当社におきましては、江戸時代の初め元和八年（一六二二）に現在の御本殿が創建されました。来る令和四年には、御本殿創建四〇〇年の佳節を迎えます。これを記念するとともに、この佳節に御本殿の修復及び幣殿・拝殿の造替などを含む「令和の大造営」を計画いたしました。社殿を造り替えることは、全てが新しく甦り、御神威の新たな輝きを拝することであり、先人の想いを後世に受け継いでいくことでもあります。そして初心に還り、心新たに明日への希望と活力の源泉となるものです。伊勢の神宮、賀茂別雷神社（上賀茂神社）、賀茂御祖神社（下鴨神社）等では、一定の年数毎に建物や御神宝を造り替える「式年遷宮」が行われているように、この考え方は古代から重要視されてきた日本人の精神性であります。

当社においても、本造営は先人から大切にしてきた氏神様に対する崇敬の心を、次世代に受け継いでいく大事業であります。氏子・崇敬者の皆様におかれましては、造営事業中、何かとご不便をおかけすることとなりますが、どうぞご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

御本殿創建四百年記念事業

当神社御本殿は来たる令和四年（二〇二二）に創建四百年という大きな佳節を迎えます。

現在の本殿は、江戸時代の初め元和八年（一六二二）にそれまでの本殿を現在の奥宮天石門別神社の社殿とし、新たに素戔鳴命・春日大神・八幡大神の三神を祀るために現本殿が築かれました。

時を経て明治十三年（一八八〇）になって本殿前に幣殿と拝殿が新たに造営、また昭和四年（一九二九）には屋根を檜皮から銅板に葺き替えられましたが本殿は時々の修復のみで創建時の姿で今日に至っています。

創建四百年の佳節を迎えるにあたり、去る平成二十九年三月に「御本殿創建四百年記念事業委員会」を結成し、種々検討してまいりました。そしてこの度、本殿の修復及び九十年を経て雨漏が著しくなった屋根の葺替、また高床の拝殿への昇降解消に伴う幣殿・拝殿の造替等実施することとなりました。

新社殿の建築の特徴

一般に本殿と呼ばれる社殿も厳密には、本殿（大神の坐しますお社）、幣殿（祭祀用の建物）、拝殿（参拝者が着座、礼拝する建物）の三殿から成り立っています。この度の造営では、創建から四百年経つ本殿は解体修理だけを行い、幣殿、拝殿はすべてを新しく造り替えます。

本殿は平入りの三間社流造という建築様式で、反りのある切

妻屋根（本を開いて伏せたような形）の正面側に庇を設け前方に延ばした形です。正面の間口が三間あることから三間社流造と呼ばれています。本殿は一旦全解体し、補修したのち再度組み立て、創建時のままの姿を次代に残します。その際正面中央の唐破風屋根の檜皮葺と屋根の銅板及び千木・鯉木の銅板は新しく葺き替えます。この千木の納め方が神明造の様式を模した形であることも特徴です。

幣殿は、正面側の間口を広くして、祓所及び楽人座を設け、神楽・舞の広さを確保します。

また、天井は本殿正面の重厚な檜皮葺の唐破風の意匠をより強調して見えるように、天井は茨垂木を用いた唐破風の化粧屋根裏の形式を踏襲します。この茨垂木のような大きな曲がりのある部材は、幅広の木材から造り出すため貴重で高価なものになります。かつてこの様式を採用した先人達の強い思いと努力がうかがえ、その心を後世に伝えたいと思います。

拝殿は現在同様、入母屋造で



現在の幣殿天井

正面に唐破風を設けます。東西両翼には現在のような下屋形式ではなく切妻屋根とし、緋破風（本屋根の軒先から一方にだけさら突き出した部分の破風）を設けて参拝時の雨除けとします。一般的な向拝柱及び向拝（屋根の中央が前方に張り出した部分）を設けないことにより、間口が広く、先人達より連綿と繋いできた夏祭の神輿の宮入りが今後可能になります。拝殿正面の化粧垂木は現在よりも本数を増やし間隔を密にした本繁垂木とし、木口には現在と同様社紋入りの純金箔押ししの鋳金具を取り付け、より一層重厚感と荘厳さを増す工夫を加えるとともに、

先人の思いを伝えます。また、すべての出入口の扉は、現在の格子戸及び引き違い戸から板唐戸に替わります。拝殿の床は、ご参拝の方々の昇殿時の階段の昇降ならびに座礼参拝の不便解消のため、現在の畳敷きの高床形式から土間・椅子式へと変更いたします。



現拝殿の化粧垂木

工事日程等について

現御本殿の創建は江戸時代初期の元和八年（一六二二）十月十日（この日が例祭日）であることから令和四年十月十日迄の竣工を予定しています。したがって造替工事が現本殿の解体工事から竣工まで約二年がかかることから令和二年夏から始めることとなりました。

主な工事内容は次のとおりです。

一、仮殿の建設

現本殿を造替するにあたってその間大神様がお鎮まりになる「仮本殿」及び諸祭儀を斎行する「仮拝殿」を令和二年二月から五月の間、現本殿石段前に建設します。

一、仮遷座祭

仮本殿・仮拝殿完成後、大神様を仮本殿にお遷りいただく仮遷座祭を六月上旬に斎行します。以後、仮殿にて諸祭儀を斎行いたします。

一、解体く本工事

令和二年八月頃から令和四年秋の完成にむけ、現本殿の解体そして本工事を開始し、令和四年九月頃完成予定です。

一、関連工事

(一) 仮殿・仮拝殿建設により現手水舎が使用できなくなるため仮設の手水舎を参集殿北側に設置します。その後、一月下旬に現手水舎を撤去します。

(二) 一月下旬から現本殿東側植栽のセットバック及びイチヨウの木の新植作業を実施します。工事期間中には施工現場を

ご覧いただく見学会の開催を予定しております。荘厳な社殿の建築様式を間近にご覧いただくまたとない機会ですので是非ご参加下さい。なお、境内は工事に伴い重機などの工事車両が頻繁に往来致します。ご参拝の皆様には、何かと不便をお掛けすることとは存じます。何卒ご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



仮殿・仮拝殿建設地



臨時手水舎設置箇所

「秋のガンバル市」開催

台風十七号接近、と心配されていた天候も幸い曇り空となった九月二十一日に商工会議所・商業団体連合会主催の「ガンバル市」が境内で開催されました。約三十店のハンドメイド店で腕自慢の方による小物・アクセサリー、菓子等が並び、またマイスターズショップでは飲食が楽しめ、手作り体験の店ではオリジナルのマスケットや座布団作りが楽しめました。特設ステージは演奏会やマジックショー、青空落語寄席と盛りだくさんの行事が続ぎ、終日多くの人で賑わいました。



黒井の清水大茶会



秋恒例の「黒井の清水大茶会」が十月十九日、二十日の二日間催されました。残念ながら十九日は雨の予報が出ていたので境内での野点を止めて参集殿での茶会となりました。本殿での奉茶式で茶会の幕が開け、境内に並んだテントでは炭木物産店や手作り木工店が、そして雅楽や琴の演奏も催され、本殿裏では喫茶コーナーや抽選会もあり、二日間で約二千三百人が訪れ賑わいました。

抜穂祭

毎年神社の境内では、神宮でのみ栽培され、「イセヒカリ」と名付けられた稲を、少しですが田植から育てています。今年も夏の暑さと度重なる風雨に耐え順調に生育して、実りの秋を迎えました。神様の御恵み・お蔭でできた米なので「御蔭米」と名付けて、恒例の抜穂祭を十月二十六日に斎行し、そして十一月十四日の大嘗祭当日祭に神前にお供えいたしました。



奉賛会バスツアー



恒例の奉賛会バスツアーが、十一月二十六日に実施されました。六年前の遷宮直後に参拝をして以来六年ぶりの神宮参拝となりました。内宮の御垣内特別参拝に続いて神楽殿にて「大々神楽」の奉納、その後昼食、おはらい街を散策し、帰路には明和町の齋宮歴史博物館を見学しました。約千年以上前から、天皇が即位するたびに選ばれ、ご在位の間、天皇に代わり伊勢神宮に仕えた齋王の宮殿跡や生活京の都から伊勢への旅などが詳しく展示されており、有意義な秋の一日を過ごしました。

これからの行事予定

- ◆ 越年祭 十二月三十一日
- ◆ 歳旦祭 一月一日 午前十時
- ◆ 十日戎祭 一月九日～十一日
- ◆ 御火焚(とんど) 祈禱木奉焼祭 一月十五日
- ◆ 初午祭 二月九日
- ◆ 節分祭 鎮魂星祭 二月三日
- ◆ 紀元祭 二月十一日
- ◆ 人形奉焼祭 四月八日
- ◆ 春祭(祈年祭) 奉賛会厄除安全祈願祭 四月十八日
- ◆ 大祓 茅の輪くぐり神事 六月三十日